Event report

【主催】管理栄養士と開業医がコラボする会

診療所における管理栄養士の有意性をさまざまな角度から検証

8月3日(土)、「第5回管理栄養士と開業医がコラボする会」が、会場(大阪樟蔭女子大学)&オンラインのハイブリッドで開催され、約80人が参加。医師や管理栄養士、看護師、理学療法士ら多職種が参加し、大いに盛り上がった。

同会は会場とオンラインのハイブリッド開催で情報が発信された

管理栄養士がもたらす診療所経営へのメリット

近年、地域の在宅療養患者の栄養管理や生活習慣病患者の栄養食事指導に対するニーズが高まってきている。こうした現状を鑑み、大阪樟蔭女子大学健康栄養学部健康栄養学科教授の井尻吉信氏と、医療法人松若医院院長の松若良介氏の両者が発起人となって、2019年に「管理栄養士と開業医がコラボする会」を発足。以来、さまざまな活動を通じて、管理栄養士と開業医が協働することの有意性を発信し続けてきた。

同会が発足した翌年である令和2年度診療報酬改定では「外来栄養食事指導料1」「外来栄養食事指導料2」が新設され、オンラインなどの情報通信機器等を用いた栄養食事指導でも診療報酬が算定できるようになった。さらに、外来栄養食事指導料2はほかの医療機関および栄養ケア・ステーションの管理栄養士による指導でも算定が可能であることから、外来栄養食事指導料1・2を算定する診療所は増加傾向にある。

診療所に管理栄養士を配置することで、糖尿病や高血圧症などの生活習慣病を抱える患者の食生活改善や診療報酬算定による経営の安定化などに期待できるようになった。これを背景に同会の活動も年々活発化。診療所が管理栄養士を雇用することで生まれる、3つのメリットを管理栄養士との連携が未経験な施設に周知を図っている。その3つのメリットとは次のものだ。

(1)生活習慣病やフレイルなどの進行抑制と治療効果の向上が期待できる。

(2)診療時間だけではわからない患者の本音や悩み、治療につながるヒントを医師に代わって管理栄養士が見つけてくれる。

(3)対面だけでなくオンラインでも栄養食事指導ができ、また診療報酬が算定できる。

このように、同会は地域の患者に寄り添う〝かかりつけ管理栄養士〟の存在意義の啓発に尽力している。この地道な活動が奏功し、同じベクトルを有す仲間たちが徐々に増えている。

会場参加者からも活発な意見が寄せられた

管理栄養士の存在意義を事例を交えて紹介

同会は、情報発信・交換を目的とした「第5回管理栄養士と開業医がコラボする会」を8月3日(土)に、会場とオンラインのハイブリッドで開催し、約80人が参加。会場の大阪樟蔭女子大学には管理

「管理栄養士と開業医がコラボする会」ホームページ

(C) 2024 日本医療企画

会場参加者らによる記念撮影。会場には多職種が足を運んだ

栄養士や医師（内科・整形外科）をはじめ、歯科医師、看護師、理学療法士ら約60人が集結した。

開会にあたり、発起人で代表世話人の松若氏はビデオメッセージで「当会の活動を通じて、診療所に管理栄養士の活躍の場を広げていきたい」と呼びかけた。

特別講演では、医療法人葛西医院院長の小林正宜氏が登壇。「外来から在宅緩和ケアまで管理栄養士が活躍する未来への提案～KISA2隊活動を通して感じた地域医療のNEXTチャレンジ！～」について講演した。

コロナ禍の2020年に、地域社会における医療課題の解決を目的に京都で発足して以来、全国に広がりつつある医療・介護チーム「KISA2隊」の大阪隊長を務める立場から、地域活動を通じて見えてきたプライマリケアのあり方について考察。さらに在宅医療における課題である、多職種連携による「食」へのアプローチについても触れ、「当院でも管理栄養士を雇用し、ポテンシャルを確認したい」と述べた。

司会進行を務めた発起人の井尻吉信氏

続いて一般講演では、くれよん薬局の管理栄養士である根来光哉氏が「かかりつけ管理栄養士が繋ぐ〝診薬連携〟～薬局管理栄養士の可能性～」を講演した。

従来の診薬連携は、医療機関からの情報が薬局に留まる〝一方通行〟だったが、薬局から医療機関へ栄養食事指導の内容などをフィードバックする体制を整えたことで指導件数が増え、ニーズの拡大につながったことを報告。「かかりつけ管理栄養士の実現や、薬局の付加価値になることが期待できる」と説明した。

特別講演で講師を務めた小林正宜氏

情報提供では、同学「井尻ゼミ」の学生たちが地域の高齢者のフレイル予防を目的に制作した「80GO（ハチマルゴー）かるたを紹介。また、井尻氏と医療法人蒼泉会上仁上田クリニック理事長の上田量也氏が座長を務めたフリーディスカッションでは、診療所における管理栄養士の雇用形態や業務内容など、さまざまな質問や意見が交わされた。診療所と管理栄養士が連携することで生まれるメリットが共有され、新たな協働への展望が広がった。

一般講演を行った根来光哉氏

フリーディスカッションでは、井尻氏と上田氏（左）の両氏が座長を務めた

(C) 2024 日本医療企画